

【第7期南幌町総合計画】

まちづくり企業アンケート調査結果報告書  
(概要版)

＜令和7年度実施＞

令和8年4月

## 目 次

|     |                                  |   |
|-----|----------------------------------|---|
| 1   | 調査概要.....                        | 1 |
| 2   | 主な結果.....                        | 2 |
| 2.1 | 回答者の属性.....                      | 2 |
| 2.2 | 雇用・人材確保の状況.....                  | 3 |
| 2.3 | 望ましい南幌町の姿.....                   | 5 |
| 3   | まとめ.....                         | 7 |
| 3.1 | 論点 1 町内企業における人材確保.....           | 7 |
| 3.2 | 論点 2 町内企業における産業振興と生活環境整備の両立..... | 8 |

## **1 調査概要**

### **1.1 調査の趣旨**

南幌町では、平成29年度に策定した「第6期南幌町総合計画」に基づき、各種施策を推進してきたが、10年間の計画期間が令和8年度までとなっており、これまでの取組みを点検しながら、これからのまちづくりを方向づけていくため、「第7期南幌町総合計画」を策定する。

策定にあたり、南幌町内の企業（経営者）からご意見などをお聞かせいただき、より地域の実情と個性を反映した実効性のある総合計画策定の基礎資料とするため、本調査を実施した。

なお、本稿においては、調査項目のうち特に次期総合計画策定の参考になると考えられる項目を抽出して整理した。

### **1.2 調査の実施**

令和7年8月5日を基準日に、南幌工業団地企業協議会員のうち町内に事業所がある企業42社を調査対象とし、郵送による調査票の配布・回収、及びオンラインフォームによる回答を受け付けた。

調査期間は、令和7年8月29日～9月26日までとした。

### **1.3 回答状況**

配布数42件に対し、18社から有効回答が得られた（回答率：42.9%）。

## 2 主な結果

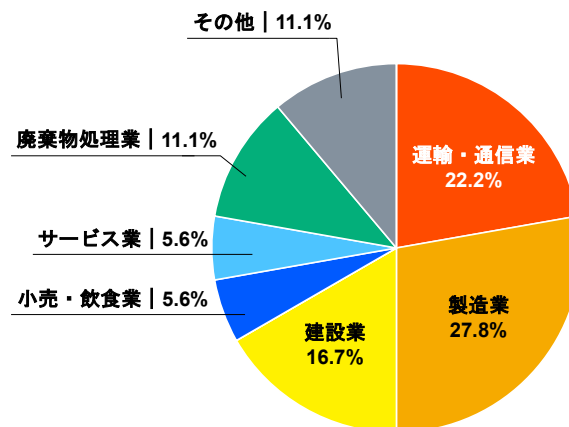
### 2.1 回答者の属性

#### 1) 業種

回答者の業種は「製造業（27.8%）」と「運輸・通信業（22.2%）」が主要である。建設業や廃棄物処理業も一定割合を占めており、全体として多様な産業が存在している。その他には、「クリーニング業」、「ビニールハウス加工・施工業」が含まれる。

前回調査時点でも製造業と運輸・通信業が主要産業であり、今回調査とほぼ同じ構成比で推移している。したがって、産業構造に大きな変化はみられない。

問1：会社の業種は何ですか（N = 18）

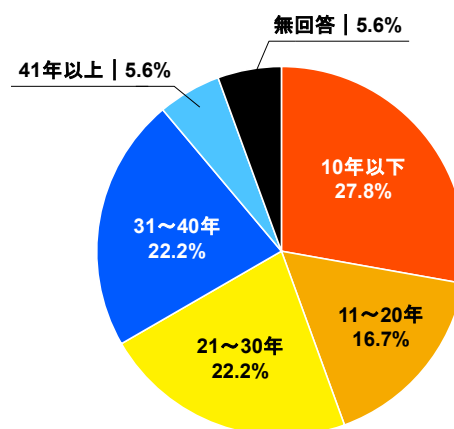


#### 2) 事業所の立地年数

立地年数は「10年以下（27.8%）」が最も高く、「21～30年（22.2%）」と「31～40年（22.2%）」が次点となり、新規立地と長期定着の双方が併存している。

この傾向は前回調査時点も同様であり、企業誘致と定着が継続して発生している。

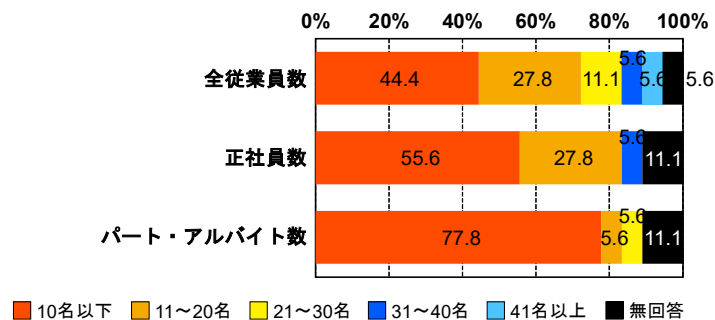
問2：南幌町に事業所を立地して何年目になりますか（N = 18）



### 3) 事業所における従業員数

事業所における従業員数は、全従業員数、正社員数、パート・アルバイト数とも「10名以下」が最も多く、小規模企業が主要となる。全体の1割に満たないが、全従業員数が「41名以上（5.6%）」の企業もみられる。

問3：南幌町の事業所における従業員数は何ですか（N = 18）

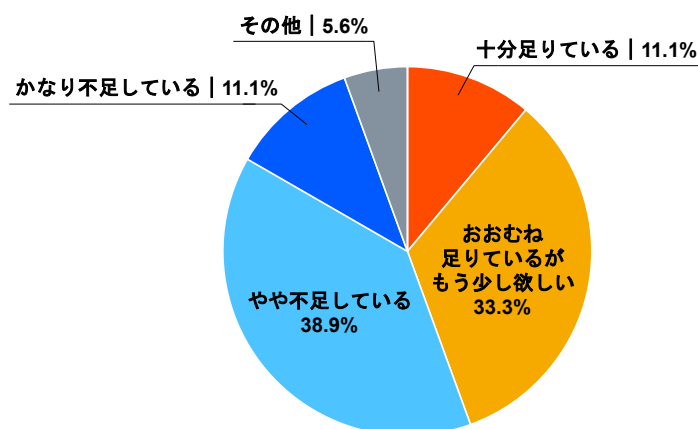


## 2.2 雇用・人材確保の状況

### 1) 人材の充足状況

人材の充足状況は、「やや不足している（38.9%）」、「おおむね足りているがもう少し欲しい（33.3%）」が7割以上を占め、全体として人材不足が常態化している。「十分足りている（11.1%）」企業は1割程度と少数である。その他には、「将来的に不足する可能性があるが、現在は足りている」が含まれる。

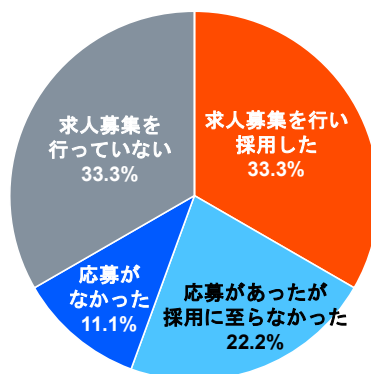
問7：南幌町内の事業所において、人材は足りていますか（N = 18）



## 2) 求人募集と採用の状況

求人募集と採用の状況は、約 7 割が求人募集を行ったが、「求人募集を行い採用した（33.3%）」企業は一部となる。

問8：過去1年間に南幌町の事業所の求人募集を行いましたか（N = 18）



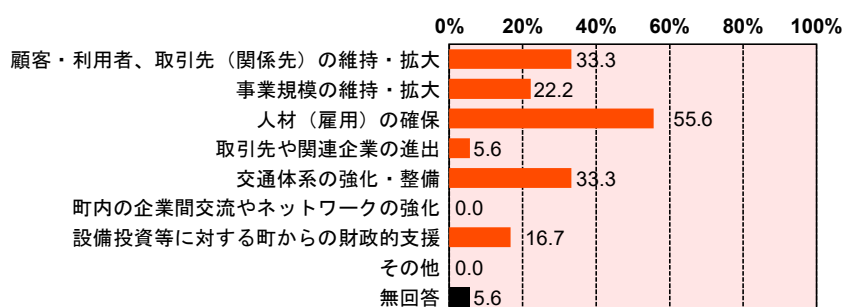
## 3) 南幌町で事業活動や立地を続けるために必要だと思うこと

南幌町で事業活動や立地を続けるために必要だと思うことは、「人材（雇用）の確保（55.6%）」、「顧客・利用者、取引先（関係先）の維持・拡大（33.3%）」、「交通体系の強化・整備（33.3%）」が主要となる。

前回調査時点でもこれら 3 要素が上位を占めており、課題の継続性が高い。特に「人材（雇用）の確保」は前回調査に比べて回答率が 3 倍以上増加した。

また、人材の充足状況や、求人募集と採用の状況も踏まえると人材面の課題が顕著である。

問6：これからも南幌町で事業活動や立地を続けるために必要だと思うことは何ですか（N = 18）



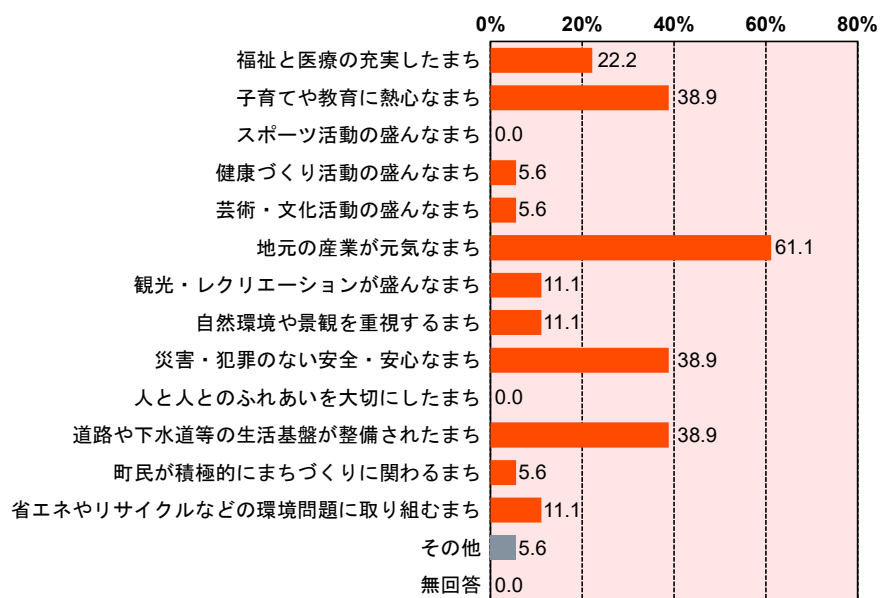
## 2.3 望ましい南幌町の姿

### 1) 将来に望むまちの姿

南幌町が将来どのようなまちになることが望ましいかについては、「地元の産業が元気なまち（61.1%）」が最も多く、「子育てや教育に熱心なまち（38.9%）」、「災害・犯罪のない安全・安心なまち（38.9%）」、「道路や下水道等の生活基盤が整備されたまち（38.9%）」が次点となる。その他には、「冬期に車両が落下しないようにきらら街道への防雪柵の設置」が含まれる。

前回調査時点でも産業振興が最も高く、その他の項目も同様の傾向となる。したがって、企業が望む方向性は安定しており、産業振興と、教育を含む生活環境整備の両立が求められている。

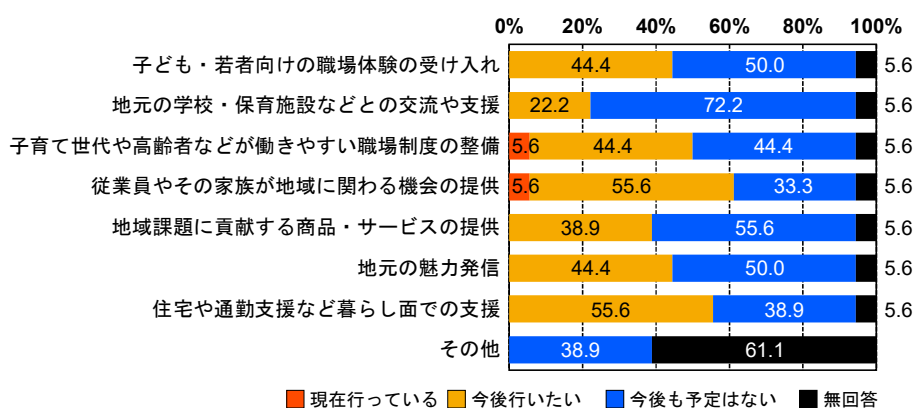
**問11：南幌町が将来どのようなまちになることが望ましいと思いますか（N = 18）**



## 2) 地域社会や南幌町の未来にプラスの価値を生み出すような取組みの状況

自社の事業活動を通じて、地域社会や南幌町の未来にプラスの価値を生み出すような取組みを行っているか尋ねた結果、「従業員やその家族が地域に関わる機会の提供」、「住宅や通勤支援など暮らし面での支援」では「今後行いたい」が5割以上、「子ども・若者向けの職場体験の受け入れ」、「子育て世代や高齢者などが働きやすい職場制度の整備」、「地元の魅力発信」では「今後行いたい」が4割以上を占める。一方で、現時点の取組み実施企業は1割に満たないことから、潜在的意欲はあるが、実行に至っていない状況がうかがえる。

**問12：自社の事業活動を通じて、地域社会や南幌町の未来にプラスの価値を生み出すような取組みを行っていますか（N = 18）**



### 3 まとめ

調査結果に基づき、町内企業における現状と課題は、「人材確保」と「産業振興と生活環境整備の両立」という2つの論点として整理できる。

#### 3.1 論点1 町内企業における人材確保

2.2 1)『人材の充足状況』、2.2 2)『求人募集と採用の状況』、2.2 3)『南幌町で事業活動や立地を続けるために必要だと思うこと』の結果を見ると、町内企業の7割以上で人材不足が広くみられ、求人募集を行っても採用に至らない、あるいは応募自体が少ないなど、採用難の状況が生じている。特に、事業継続に必要な条件として「人材（雇用）の確保」を挙げる割合が6割程度と最も高く、企業活動全体に影響を及ぼす課題となっている。これらの結果から、町内企業における人材確保は、個別企業の努力のみでは解決が難しい課題であることがうかがえる。

人材確保の課題は、「人材が働きに来られる条件」と「地域企業を知ってもらう機会」という2つの側面から捉えることができる。

「人材が働きに来られる条件」を見ると、2.2 3)『南幌町で事業活動や立地を続けるために必要だと思うこと』では、「交通体系の強化・整備」を挙げる割合も2番目に高く、事業継続を支える条件の一つとして認識されている。通勤手段の選択肢が限られることは、就業可能な人材の範囲を狭める要因となり、結果として採用機会の減少につながる可能性がある。特に、町外からの通勤や広域的な人材確保を考えるうえでは、交通環境のあり方が人材確保のしやすさに影響を及ぼすことが考えられる。

「地域企業を知ってもらう機会」を見ると、2.3 2)『地域社会や南幌町の未来にプラスの価値を生み出すような取組みの状況』では、子ども・若者向けの職場体験の受け入れや、地元の学校・保育施設などとの交流や支援について「今後行いたい」とする企業が5割程度ある一方で、「現在行っている」と回答した企業は存在しない。こうした結果から、地域企業と子ども・若者が接する機会には広がりや余地があり、将来的な担い手に地域企業の仕事や魅力を知ってもらう機会が十分とはいえない状況がうかがえる。

以上を踏まえると、町内企業における人材確保の課題の解消に向けては、「人材が来られる環境」と「企業を知る機会」の双方を整備し、一体的に進めていく視点が求められる。

#### <町内企業における人材確保の現状・課題（要約）>

- ・人材不足が広くみられ、採用難の状況が生じている
- ・交通環境の制約が就業可能な人材の範囲を狭めている
- ・子ども・若者が地域企業を知る機会が十分に確保されていない

#### <人材確保の解消に向けて考えられる対応策（案）>

- ・通勤環境の改善や広域的な人材確保を可能とする交通施策の検討
- ・学校や地域と連携した職場体験・交流機会の創出
- ・企業と求職者をつなぐマッチング機能の強化 等

### 3.2 論点 2 町内企業における産業振興と生活環境整備の両立

2.3 1)『将来に望むまちの姿』の結果を見ると、「地元の産業が元気なまち」を望む割合が6割程度と最も高い一方で、「子育てや教育に熱心なまち」や「災害・犯罪のない安全・安心なまち」、「道路や下水道等の生活基盤が整備されたまち」を挙げる割合も高く、4割程度の企業が回答している。これらの結果から、町内企業は、産業振興のみならず、子育て・教育や生活基盤等の生活環境整備も今後のまちづくりに必要な要素として捉えていることがうかがえる。

近年、南幌町では若年層や子育て世代の移住が進んでいる状況にあるが、こうした層の定着には、働く場の確保が不可欠である。一方で、前項で論じた通り、町内企業では人材不足が広くみられており、本来であれば地域内での雇用の受け皿となり得る状況にある。このことから、町内においては、「働き手」と「働く場」が存在しながらも、十分に結びついていない可能性があると考えられる。

以上を踏まえると、産業振興と生活環境整備はそれぞれ個別に進めるのではなく、雇用の受け皿としての地域の機能を高めていく視点から、移住・定住施策と連動させながら一体的に進めていくことが求められる。

#### <町内企業における産業振興と生活環境整備の現状・課題（要約）>

- ・企業は産業振興に加え、子育て・教育や生活基盤の充実も重視している
- ・若年層や子育て世代の移住が進む中、地域内の雇用の受け皿づくりが課題である
- ・産業振興と移住・定住、生活環境整備が十分に連動していない可能性がある

#### <産業振興と生活環境整備の両立に向けて考えられる対応策（案）>

- ・地域内での就業機会の可視化やマッチング支援
- ・多様な働き方の導入（短時間勤務、柔軟な就業形態等） 等